

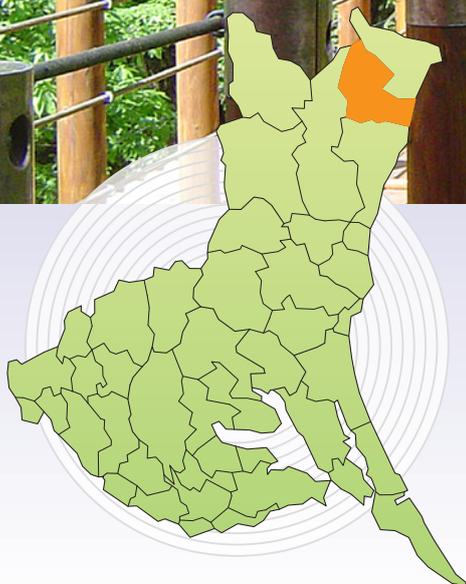
# 支店長のわがまち紹介

## 第7回

# 茨城県 高萩市

### 「高萩学のすすめ」市民一人ひとりが歴史観光ガイドに

新緑の花貫溪谷 汐見滝吊り橋 写真提供：高萩市



茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第7回目は高萩市です。高萩市の草間市長は、平成25年が常陸国風土記勅撰1300年の記念の年であることから、茨城県内でその記念事業を行うことを真っ先に知事に進言し、「常陸国風土記勅撰1300年記念事業実行委員会」の委員長として活躍されています。筑波銀行は、「地域復興支援プロジェクト『あゆみ』」のもと、高萩市、高萩市観光協会、(株)JTB関東と平成25年4月に「高萩市の地域振興に関する協定書」を締結し、連携して地域の歴史・文化を発信し郷土愛と誇りを育む取り組みを実施しています。

高萩支店長の伊東慎也が、高萩市副市長 小島隆史氏、経営戦略部長 藤井勝氏、市長公室四英傑専門官 佐川春久氏、経営戦略部参事兼まちづくり観光課長 水野浩一氏にお話を伺いました。

### ○高萩市が自慢に感じることは何ですか。

高萩市は、茨城県内はもとより日本国内でも稀有な歴史的資産を有しています。そして、本年11月23日に市制60周年を迎えます。

### ●高萩四英傑

郷土が輩出した歴史的偉人を「高萩四英傑」として顕彰し、伝えていきます。時代順に、初代松岡城主「戸沢政盛」、水戸藩初代附家老「中山信吉」、地理学者「長久保赤水」、植物学者「松村任三」です。

戸沢政盛は、関が原の戦いの前年、会津の上杉景勝の動静の第一報などの功績が徳川家康に認められ、常陸松岡藩主になると竜子山城を改築し、松岡城として整備しました。

戸沢政盛が出羽へ国替えされた後、この地に来たのが中山家です。初代の中山信吉は、水戸藩の基礎を築き、後に水戸黄門として知られる名君・光圀の素質を見抜き、三代将軍徳川家光に二代水戸藩主として推挙しました。

長久保赤水是、六代水戸藩主治保の侍講(教師)で、日本で初めて緯線と方角線の入った日本地図を完成

させました。「改正日本輿地路程全図」には竹島が記載されており、外務省は赤水の地図を「鬱陵島と竹島を朝鮮半島と壱岐諸島との間に的確に記載している地図」と評価<sup>\*1</sup>しています。

松村任三は、明治・大正時代の植物学者で、全国200カ所を歩き、植物標本を作製・管理し、ソメイヨシノやハマギク等180種類以上の植物に学名をつけ、日本の植物学の基礎を作り、東京大学付属小石川植物園の初代園長も務めました。

### ●四英傑にゆかりのある自治体との交流

同じ歴史や文化を共有する自治体と交流し、お互いの歴史認識を確認し、視察や観光等によって交流人口を増やし、活性化を図っています。

平成21年の市制55周年記念式典では、全国初の「徳川御三家附家老サミット」を実施し、徳川御三家の附家老<sup>\*2</sup>が置かれた5つの自治体(尾張：愛知県犬山市・岐阜県海津市、紀伊：和歌山県田辺市・和歌山県新宮市、水戸：高萩市)と交流しました。また、埼玉県飯能市は、中山信吉の先祖伝来の地であることから、同市と友好都市提携を結んでいます。

<sup>\*1</sup> 外務省ホームページより

<sup>\*2</sup> 徳川家康は、二代将軍秀忠の頃、自らの子息を藩主として尾張、紀伊、水戸に江戸幕府の直轄地(御三家)をつくり、藩主の補佐役として信頼できる有能な家臣を家老に任命しました。これが、幕府から附けられた家老である「附家老」と言われる役職で、御三家には五家置かれ、大名に準ずる格式が与えられました。



小島副市長



藤井部長



佐川四英傑専門官



水野参事

### ○筑波銀行と地域振興に関する協定書を締結しました。その効果等をお聞かせください。

自然を中心とした観光では、特定の時季の集客しか期待できません。海は夏のみ、花貫溪谷は圧倒的に秋に偏ります。自然と歴史を組み合わせ、4月～11月の観光シーズンには常にお客さんに来てもらえる取り組みを行わなければなりません。

そのため強い味方が、協定締結によって平成25年10月25日に発刊された「るるぶ高萩」です。発刊直後から精力的に配布したので、11月中旬には穂積家住宅から就将館へ「るるぶ」を携えて周遊する人の姿が見られ、効果を実感しています。筑波銀行の各支店や県外の銀行の支店に置いてもらえることで、効果はさらに大きく広がります。

筑波銀行には、茨城県北ジオパークのインタープリターや、各種イベントでもボランティアとして協力してもらい、業種を超えた人と人との関わりも得られました。市職員が、企業のノウハウを学び、多面的な視点で仕事ができればと期待しています。

筑波銀行には、茨城県北ジオパークのインタープリターや、各種イベントでもボランティアとして協力してもらい、業種を超えた人と人との関わりも得られました。市職員が、企業のノウハウを学び、多面的な視点で仕事ができればと期待しています。

### ○今後の展望についてお聞かせください。

草間市長は、常陸国風土記勅撰1300年の記念フォーラムのトークショーで、茨城県の科学、歴史、自然、農業の頭文字を取った、「かれしの魅力を知る」という造語を披露しました。この4つをつなぐキーワードが「観光」です。

景色はいいけれど接遇がダメ、と言われないように、市民が高萩市の魅力を語り、訪れてくれた人がリピーターになることが理想です。

「るるぶ高萩」といういいものができました。ここからがスタートです。るるぶ高萩に掲載された魅力を、市民一人ひとりが認識し、学ばなくてはなりません。市職員も「歩くるるぶ」と言われることを期待しています。

高萩市の歴史と自然を満喫してもらったら、その先のお金を落としてもらうための仕掛け（商品）が必要です。たかはぎブランド委員会による市内の特産品のPRや、花貫物産センターでの常陸大黒を使った米粉パンなど新商品開発にも取り組んでいます。自治体間競争の激しい時代です。他のまちにはない高萩市の資源をどのように活かせるかが、これからの勝負です。



伊東支店長

平成25年10月26日には「第1回戸沢サミットin高萩」を開催し、戸沢政盛公に縁のある5つの自治体（岩手県雫石町、秋田県仙北市、山形県新庄市、小美玉市、高萩市）が一堂に会しました。

同時に、大規模災害時相互応援協定を締結することで、住民の命を守る安全安心なまちづくりを目指しています。東日本大震災の翌日に飯能市から給水タンクや救援物資が、3日後に新宮市・犬山市などからも給水車が到着し、高萩市民は大いに勇気づけられました。

### ●市民が歴史を語り継ぐ

郷土の歴史は、語り継ぐ意志を持って、学校や家庭で語り合わない埋もれて忘れられてしまうものです。地域学習教材「高萩学のすすめ」を作成し、小中学校9年間で郷土の歴史、自然、風土を体系的に学習する時間を設けています。

松岡小学校内に松岡藩校の名前をとった郷土資料室「就将館」をつくり、一般公開しています。

また、松岡小学校に近い松岡城の跡地が寄付され、今後有効活用を図っていきます。



松岡藩校就将館 写真提供：高萩市

### ●歴史観光

高萩市の歴史に触れ、自然を楽しんでもらう「歴史観光」を進めます。穂積家住宅、松岡城跡や就将館を見学して高萩四英傑を感じ、夏は海水浴へ、桜・新緑の春や紅葉の秋には花貫溪谷を散策してもらいます。

高萩市では、歴史・文化の活用は始まったばかりです。例えば、市内石滝団地の近くの古代道や上台古墳群など、まだまだ市民も知らない歴史・文化の遺産が沢山あります。ないものねだりをするのではなく、持てる資源を掘り起こし、活用していきます。